

架空献金疑惑を否定したが 会計帳簿は公開せず—29日の全員協議会

1月26日付の新潟日報(左下参照)が、木浦市長後援会の収支報告書の収入が「架空」ではないかとの疑惑を報道しました。「市長の市内外の親族ら十六人を中心に、計約二千三百万円の個人献金を受けたと記載したが、実際には記載どおりの献金をしていない人が複数いる疑いがあることが二十五日、新潟日報社の調べで分かった」というものです。

この疑惑、実は市出資企業の違法献金や迂回献金問題が浮上した当初から指摘されていたものです。「同報告書に記載された献金者十六人のうち、十四人が個人献金の上限にあたる百五十万円を献金(新潟日報)し、市長夫人だけが657191円という「端数」のある献金をしたという、およそ常識では考えられない不自然な記載だったからです。その上、16人中12人が「無職」というものです。

「木浦市長は二十五日夜、「献金をした親族から、取材にうそをついてしまったと連絡を受けた」と答えた」(新潟日

報)そうですが、何とも気の利かない釈明です。急遽「29日に全員協議会」が開かれることになりました。

その29日の全員協議会。市長の釈明はほんの数分でした。「親族は、マスキミの突然の来訪で動転してうそをついてしまった」という趣旨のものです。

市民クの本城、仲田、近藤の各議員が次々に質問しました。私もそれに加わりました。質問の趣旨は、「収支報告書では、資金の流れの詳細が分からない

い。3年間の保管が義務付けられている会計帳簿を公開すべきだ」ということです。

この中で市長の口から、「分割納入されたものがある」との発言が飛び出してきました。政治資金規正法の趣旨からすれば、「分割して納入されたら分割して記載する」べきもので、これもまた、「違法」の可能性があります。

さらにまた、「選挙管理委員会の指導に従って記載した」ようにも言っていました。そのことを持つて責任を回避することはできません。

架空の献金記載か

親族2人が事実否定

木浦上越市長 収支報告書

上越市の木浦正孝市長の後援会が、上越市議会が行われた2005年の政治資金収支報告書で、市長の市内外の親族ら十六人を中心に、計約二千三百万円の個人献金を受けたと記載されたが、実際には記載どおりの献金をしていない人が複数いる疑いがあることが二十五日、新潟日報社の調べで分かった。同報告書に記載された献金者十六人のうち、十四人が個人献金の上限にあたる百五十万円を献金(新潟日報)し、市長夫人だけが657191円という「端数」のある献金をしたという、およそ常識では考えられない不自然な記載だった。その上、16人中12人が「無職」というものです。

「木浦正孝市長は二十五日夜、「献金をした親族から、取材にうそをついてしまったと連絡を受けた」と答えた」(新潟日報)。

「木浦市長は二十五日夜、「献金をした親族から、取材にうそをついてしまったと連絡を受けた」と答えた」(新潟日報)。

「架空献金」疑惑を
報道した新潟日報
(1月26日付)

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年2月4日 No.133
発行 杉本敏宏 事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832